

「全鍍連」 2022年 6月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 浅地 哲也（浅地メッキ工業(株) 代表取締役社長）

「石川県の昆虫」



めっき業と言えば排水規制を始めとする様々な規制があり、自然環境、労働環境等に配慮が求められる業種です。

亜鉛の排水規制に関わる排水基準もヒラタカゲロウが関わっている事が知られていると思います。

自然環境に配慮した排水規制に関する我々の努力は反映されているのだろうか？という素朴な疑問と幼少の頃の生き物に関する興味がふつふつと20年前の私の中に沸き起こり、本県のレッドデータブック2009年の委員として参加もいたしました。

果たして生き物の生息環境は我々の努力が反映され生息の危機は回避されているのでしょうか？

しかしながら自然を相手に定量的な比較は困難であり、種数という母数も調査が進むうちに増えており、昆虫に関して本県ではここ20年間に1,300種も調査により新たに生息が確認されています。

本県は本州中央部の日本海側に位置し、日本海側に突き出た能登半島、高山帯を持つ白山を擁する環境から種によっては本県が北限域、西限域ともなる興味深い環境にあります。

いつしか事業者としての素朴な疑問も単なる昆虫への興味へとすっかり変わってしまいました。

定量的な判断が難しい事もあり個人的な感覚でしかありませんが、我々が関わる排水の問題だけでなく、開発行為、外来種、温暖化、高齢化による管理不足など、より大きな問題が生き物の生息に関わる環境をより厳しい物にしていると思います。

現在では石川県と九州の一部にしか生息が確認されていないイカリモンハンミョウが本県では有名ですが、本県にはエサキキンヘリタマムシという美しいタマムシが他県と比較すると多産しており個人的に石川県を代表する昆虫だと考えています。

